

シリーズ
知って納得！
地域自治区

第3回

13区の地域協議会の活動事例紹介

市では現在、合併前の上越市の区域への地域自治区の導入を目指しています。このシリーズでは、地域自治区制度について、より多くの市民の皆さんから知っていただくため、毎回テーマを絞って説明していきます。（このシリーズは、毎月15日号で連載していきます）

■問合せ…自治・地域振興課（内線1449、1547）

地域自治区に設置される地域協議会は、市長から意見を求められた案件のほか、市民の皆さんが必要と感じているテーマについても自主的に話し合うことができます。

13区に設置している地域協議会では、身近な暮らしの課題から、地域の特性をいかしたまちづくりのあり方に至るまで、様々なテーマについて話し合いが行われています。今回は、それらの主な事例を紹介いたします。

身近な暮らしに関するテーマ

事例① ごみ袋の改善について

（柿崎区）

柿崎区地域協議会では、生ごみ用の有料ごみ袋について、従来のサイズでは大き過ぎて使い勝手が悪いと、平成17年10月に、小さいサイズの袋も導入してほしいとの意見を市長に提出しました。

市では、この意見を十分に検討し、翌年度から当時有料化を実施していた地区に、新たに小さいサイズのごみ袋を導入しました。

事例② 自主防災組織の結成促進について

（浦川原区）

浦川原区地域協議会では、同区での自主防災組織の結成に当たり、世帯の減少や高齢

化などによる町内会の担い手不足の地区が多く、同組織の結成が進まない状況をふまえ、平成17年5月から平成19年2月まで、延べ10回にわたり議論を行いました。

その結果、自主防災組織の結成の必要性について、地域協議会だよりで区の住民の皆さんにお伝えしたり、一緒に議論を行ってきた総合事務所が、地域協議会での議論を受けて、町内会に対するさらなる普及活動に取り組むこととなり、結成に向けた動きが活発化しています。

身近な暮らしに関するテーマ

例えば、ごみ袋のサイズから…



▲こまめなごみ出しに便利な5ℓの生ごみ用ごみ袋(写真右)

地域特性をいかしたまちづくりに関するテーマ

例えば、地域資源の活用まで…



▲活用が期待される光ヶ原高原

地域特性をいかしたまちづくりに関するテーマ

事例①

越後田舎体験推進協議会への加入について（清里区）

清里区地域協議会では、同区で豊かな農村資源をいかした農業体験ツアーなどを実施してきたことを踏まえ、安塚区や大島区など7つの区で取り組んでいる「越後田舎体験推進事業」（豊かな自然や農村資源などをいかした「体験旅行」の受入れ事業）への参加について、話し合いました。平成18年7月からの話し合いの結果、平成20年6月に区内での組織体制が整備され、越後田舎体験推進協議会に加入しました。

事例② 光ヶ原高原観光の今後のあり方について（板倉区）

板倉区地域協議会では、同区の光ヶ原高原を管理・運営していた指定管理会社の解散を受けて、貴重な地域資源である同高原の活用のある方について審議し、平成20年1月に市長に対して意見書を提出しました。

審議の過程では、地域協議会が、区の住民の皆さんへの意見募集や関係者との意見交換を行い、それらの成果をまとめた活用計画提案書を作成し、市長に対して、意見書と併せて提出しました。

市では、地域協議会からの提案を受けて、現在、総合事務所と関係各課で連携しながら、実施計画の策定に向けて取り組んでいます。

地域自治区は、市民の皆さんの声で、よりよいまちづくりを実現していくための制度です。

